



2014年9月25日 第2555回例会 週報2348号

富田林ロータリークラブ

RIテーマ「ロータリーに輝きを」

◆会長：豊岡 敬 ◆幹事：橋本竜也 ◆会報委員会：北岡 満

◆創立：1962年6月6日 ◆例会日：毎週木曜日12:30-13:30

◆例会場：富田林市民会館（富田林市粟ヶ池町2969-5）

◆事務局：富田林商工会館2階（富田林市粟ヶ池町2969-5）
（月・火・木・金10時～16時）

<Tel> 0721-26-0133 <Fax> 0721-26-0443

<E-mail> kikusui@abeam.ocn.ne.jp

<URL> <http://tondabayashi-rc.org/>



本日のプログラム

- ▶ 今週の歌；「手に手つないで」
- ▶ 3分間スピーチ；橋本英樹君
- ▶ 卓話：下野純司野君

今週の歌

手に手つないで

手に手つないで つくる友の輪(わ)
輪に輪つないで つくる友垣(とものがき)
手に手 輪に輪
ひろがれまわれ ひとつ心に
おおロータリアン おおロータリアン

ビジター・ゲスト歓迎の歌

Welcome to our club meeting
Welcome our many wonderful friends
今日の一時 どうぞごゆっくり

出席報告

例会日	会員数	出席者	MU	出席率
9/18	38(7)	22(3)	4	76.47%
9/11	38(7)	26(3)	2	82.35%
9/4	38(7)	21(2)	4	75.76%

()内は出席免除会員

今後の予定

- ▶ 10月2日(木) 卓話：児童養護施設 高鷲学園 里親支援専門相談員 杉元千尋様
- ▶ 10月9日(木) 3分間スピーチ；辰巳泰啓君 フォーラム：台中中州 RC 来日について
- ▶ 10月15日(水) 南輪会会長幹事懇談会（河内長野商工会館 3階会議室）
- ▶ 10月16日(木) 10月17日(金)台中中州 RC 来日歓迎会に例会変更
- ▶ 10月17日(金) 台中中州 RC 来日 歓迎会（シェラトン都ホテル）
- ▶ 10月23日(木) 移動例会 滋賀県長浜環境展見学会（家族親睦会+職業奉仕）
- ▶ 10月25日(土)26日(日) 地区大会
- ▶ 10月28日(火) 南輪会ゴルフコンペ（天野山カントリークラブ）
- ▶ 10月30日(木) 10月26日(日)地区大会に例会変更

2014年9月18日 第2554回 例会記録

★ゲスト

- ・内海雅子様 富田林支援学校校長
- ・向井真美様 ミニ運動会実行委員長
- ・黒崎政子様 地域かんなび委員会会長
- ・青谷智恵様 富田林支援学校 PTA



委員会報告

●ローターアクト委員会…瀧 成和君

青少年委員会担当ですが、ローターアクト委員会の田中さん、中禮さんがおられないので代わって連絡します。ローターアクトクラブの例会は本来は第2金曜日なのですが、都合で今月は第3金曜日の明日に行われます。場所は富田林市中央公会堂会議室で午後8時からです。お時間の有る方をご参加お願いします。

会長の時間…豊岡 敬会長

大分と季節が進み、気候も涼しくなってきましたが、私は鼻風邪をひいたみたいで、お聞き苦しい声になっているのではないかと思います。季節の変わり目で体調を崩しやすい時期なので、皆さんもお気を付けてください。

9月2日に中国の上海に行ってきました。中国は、不動産バブルの崩壊等で、経済の減速が言われています。確かに上海万博前と比較すると、交通渋滞も少なくなっていますし、ビルの建設現場のクレーンの数も減っているように思います。また、中国の人件費の高騰によって、海外からの投資も減少しているようで、特に日本からの投資は昨年から43.3%パーセントの減少で激減のようです。3日には上海の展示会場であります、上海世貿商城に行きました。日中ものづくり商談会が開催されていて、約700社がブースを構えていまして、その多くが日本企業か日系企業でありました。昨年も足を運んだのですが、相変わらず多くの日本企業が出展をされていました。モノづくりの拠点としての中国から撤退する企業は多いのですが、売り先として、マーケットとしての中国にはまだまだ期待をされているのだと思いました。

私共の会社の商品に剥離帯電防止コーティングというのがあります。液晶や有機ELといったフラットパネルディスプレイの製造工程には、静電気によって不具合が発生するといった問題があり、それを我が社の導電性フッ素樹脂コーティングで解決を致しました。この分野ではオンリーワンの商品です。以前は、日本にあるお客様の工場に納入することも多かったのですが、現在

では向け先のほとんどが中国になっていて、世界のパネルのかなりの部分が中国で作られていることが分かります。石油化学のお客様は、東南アジアへの投資が増えています。最終向け先はシンガポールやタイといったところですが、その分、日本国内での投資が減少しており、益々製造業の空洞化が進んでいることを実感します。東南アジアにもフッ素コーティングの会社はありますが、小物の大量生産の工場ばかりで、我々のようなプラントものができる工場はありません。お客様からは、現地調達をしたいという希望がありまして、それでタイに進出することを決めました。バンコクの南東に位置するイースタンシーボードという工場団地の中に約 2000 坪の工場用地を取得しまして、現在工場建屋の改築を行っています。タイ最大の港とであるレムチャバン港の近くで、物流面も便利です。来年末には、アセアンが AEC（アセアン経済共同体）となって、域内のモノの動きが自由になります。そうすると、タイのバンコクあたりがアセアンの中心となり、立地的にも一番良いかな？ と思い、決めました。来年の 5 月ぐらいには稼働できればと思っています。

今日は、富田林支援学校から、内海校長を初め 4 名の方々に来て頂きました。富田林支援学校では、この秋にミニ運動会を開催することになったのですが、卒業生やボランティアの保険費用を捻出できなくて、富田林ロータリークラブに相談がありました。理事会に諮ったところ、社会奉仕の予算から 1 万円を支出して、残りの 6 千 5 百円を皆さんからのカンパをお願い致しました。

10 月 17 日に台中中州ロータリークラブの皆さんが来日されます。その接待について先週の理事会で検討して頂きました。移動例会の会場として、壺井会員ご紹介の西心斎橋にある素晴らしいステーキレストランにて行うことで検討致しました。ただし、そこは収容人数に制限があり、場合によってはフローア別々に分かれて会食となる可能性がありました。台中中州ロータリークラブの皆さん方は、富田林ロータリークラブの皆さん方と親交を深めるために来阪されるのであって、別々に会食をするのは如何なものかと思いました。それで宿泊されるシェラトン都ホテルで宴会場を確保して移動例会を開催することと致しました。

MAKE UP

- ★富田林南 RC (9 月 18 日) 坂ノ上君
- ★松原 RC50 周年記念式典 (9 月 20 日) 豊岡君
- ★IA リーダーシップフォーラム (9 月 23 日) 猪阪君、瀧君、豊田君



① 自己紹介

コンピューター業界、日本DEC(現在HP社に吸収)に約10年ハードウェアEgとして勤務。

京都、高槻で欧州車(特にフランス、イタリアなど)の営業を4年。

1995年より保険業界に直販社員という身分で親の仕事の引き継ぎを開始。

1999年代理店として独立、現在に至る。

地元では、商工会、納税協会の地区の役、代理業協会の地区の役などもさせていただいております。



② ローターリー

2007年業界の先輩に誘われ一年の約束で堺南西RCに加入。

当時4名のクラブで、私が加入したことにより5名に。

同年、堺北西RCと合併することになり、19名のクラブになった。

当初一年の約束が4年目に入り、保険業界の変革が加速してきたこともあり、幹事職を最後にさせていただく事で、RC脱会。

富田林RCへは、千田前会長のお誘いで、入会させていただきました。

千田前会長は親の代からの顧客で、お世話にもなっており、千田さんの会長年度に当たる昨期に加入を決意させていただきました。

③ 保険業界

市場規模

損害保険業界は7兆3718億円のマーケット、生保業界は40兆円のマーケット

生命保険について日本では加入率90.5%と高加入率な保険大国となっている。

動向

1996年保険業法が改正、生保、損保の相互参入、銀行窓販や、通販などの販売チャンネルが多岐にわたることとなった。

現在 生保の会社は外資系、損保系等合わせて68社あり、健全な競争がある一方、損保会社は外資系含め4社でほぼ9割以上占める寡占状態となっている。

④ 代理店としてはメーカーである損保会社が1996年時点で27社体制から現在の4社体制に激変、代理店数も1996年時点で63万店あったのに、2011年時点では19.7万店と激減。

にもかかわらず募集人の数は114.5万人が213万人へと激増、競争が激化しています。

当社も2007年に3人から5人態勢になりましたが、2009年には4人体制に。

2012年には代理店合併を経て8人体制へ、別法人を立ち上げ保険商品の間口を広げました。

2010年から取り組んだ代理店としての資格をHGAランクに格上げ(旧特級種別代理店)に2013年成功する等がんばって仕事をこなしています。

こうした業務拡充がなければ、富田林RCへの参加も難しかったように思います。

卓話では話せなかったことで、卓話ではネガティブな印象だったのではと思いましたので、特に前RCを退会から、今回の入会に至るまでの当社のポジティブな動きについて補足させていただきました。

ニコニコ

- ☺ 帆かけ舟募金
- ☺ 豊岡 敬君 西澤会員 富田林 RC での初めての卓話、ありがとうございました
- ☺ 橋本竜也君 皆様、今週もよろしく
- ☺ 千田佑兵君 西澤さん 改めてご入会有難うございました
- ☺ 森井茂治君 早退おわび
- ☺ 坂ノ上卓也君 欠席おわび

小計 30,611 円

月例ニコニコ

- ☺ 北岡 満君 奥様誕生日

小計 5,000 円

合計 35,611 円

累計 679,611 円





会員通信

横山素夫君

「浮き球」

飛行機という空飛ぶ物体は3万以上の部品から出来上がっているそうです。どの部品、羽根もボルトもエンジンも、どれをとっても飛ぶことはありません。でもそれらを組み立てて、適正に制御すると空中に10時間でも浮かんでいられます。メカニズムの技術的な進展を私たちは知っているのですが、推力が揚力を生み出し・・・と浮遊の原理を理解するわけです。凧揚げのたこといっしょで風の抵抗が浮遊力を生み出すのだろうと想像しやすいのです。

もし、インカ帝国の時代と場所にジャンボジェットが現れたら、人はどのように旅客機の仕組みを理解するのでしょうか？ある人は「飛行機の中に強力な浮き球があって、これが気体を空中に持ち上げている」と考えるかもしれません。現代のTVの解説者のような軽薄なオピニオンリーダーも、きっといたことでしょうから、そういう説明に納得する人たちも出てくるでしょう。人の理解とは、わかりやすくつじつまが合えばよいのです。それで大方は「わかった、なるほど」となるわけです。

もちろん「浮き球」などは存在しませんが、航空力学的には揚力の作用点を浮き球の中心と考えても差し支えありません。むしろそのように考えた方が、揚力と重力、推進力と空気抵抗などの力学の解析が容易になります。一方、インカ帝国の科学者が飛行機を分解して部品にばらして、浮き球を探してもどこにも見つからないわけです。実体が存在するという事と、そういうものが存在すると仮定して考えると理解しやすい、ということの良い例かもしれません。算数の中のマイナスの概念や、数学上の虚数という考えもそのようなものかもしれません。もし「浮き球」なるものに実態があれば、インディージョーンズやハリーポッターの世界になるのかもしれません。

ところで、福岡伸一博士が「生命は、生命体をいくら細かく分解しても見えてこない」と言っておられます。DNAの機能を突き詰めていっても、生命体の存在理由は見えてくるとは思われません。わたしたち人間も、肉体と自分の意識が別物であるように感じています。人間には魂（タマシイ）という「浮き球」のような核があって、魂は不滅だと。死んだら冥界に行き神様と出会って、場合によっては再度生まれ変わることができる。浮き球に実態があるのならそれも可能でしょうが、そんなことはおそらく無いでしょう。自分の心や思考を実体化したような魂を設定すること（概念として仮設置すること）は、人間の思考法にとってつじつまの合う理解しやすい方法かもしれませんが、それは仮説に過ぎないと思います。



航空力学の揚力の中心点としての「浮き球」は存在しませんが、そういう点を設定しておくことで飛行機の動きが理解しやすくなります。死んでしまったおじいちゃん、おばあちゃんの魂が天から私たちを見守ってくれている、という考え方は現況生きているものにとって有意義な思考の原点となります。まあ、しかし、それは、それです。

